

ともに。いつしよに。——子どもと典礼①

典礼の特徴は「ともに在る」ということ。そして、人が集まるその所に神がおられる、ということ。典礼に参加する子どもたちも、そのことを感じる事ができれば喜んでミサに参加することができる。乳児、幼児から高齢の方までともに一堂に集う典礼。「ともに在る」ことの喜びを味わうために次のようなことを意識する。

あいさつ。だれでも人と会ったときにはあいさつをするもの。教会では？ 聖堂に入る前から「沈黙の世界」に入っているのだろうか。無言で聖堂を目指す。ただひたすらに神のことを想う？ その前に、まず、今日、出会った「仲間」にあいさつをする。気の合う人だけでなく、出会ったすべての人に。可能ながぎり。この時、と

くに子どもたちに声をかけてはどうだろうか。あいさつをするということは、その人に関心をもっていることの実現でもある。教会に行くと、知らない人からも声をかけられれば、子どもたちは、受け入れられていることを感じ、家族の他にも自分に関心をもってくれている人があることに気づく。それはまさに、血縁や知人、友人といった関係のワクを越えて、神が呼びかけていることを体験することになる。いろんな人が喜びをもって集い、受け入れ合っている雰囲気。このことが子どもたちに安心感を与える。ミサはここからすでに始まっている。子どものミサ参加が少ない、と嘆く声も聞こえるが、それは大人の課題。子どもが少ない、ということは大人も少ない、ということ。大人の問題。

(山元眞・福岡教区司祭)